

陽子線治療 オンライン小セミナーの開催報告

2023年5月

京都府立医科大学附属病院 永守記念最先端がん治療研究センター
小セミナー事務局

京都府立医科大学附属病院 永守記念最先端がん治療研究センターでは、2019年4月から陽子線によるがん治療を開始しております。陽子線治療を広く京都府民の皆様にご覧いただくため、保険適用の疾患や治療費等について、2023年3月26日(日)にオンライン小セミナーを開催いたしました。

京都府立医科大学附属病院 永守記念最先端がん治療研究センター
陽子線治療 オンライン小セミナー

「知っておきたいがん治療 陽子線治療とは? ～保険適用の対象疾患が拡大されました～」

(1) 講演 1 「陽子線治療の概要と適応疾患について」

京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 渡邊 翔

(2) 講演 2 「当院の陽子線治療の特徴」

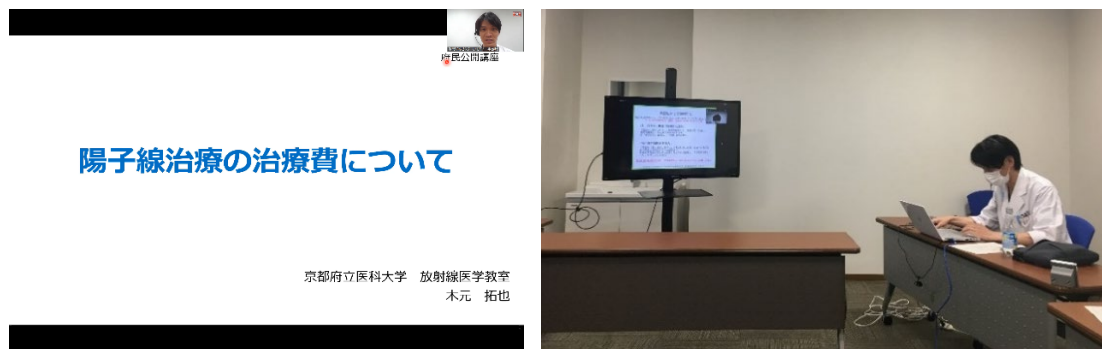
京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 瀬理 祥

(3) 講演 3 「陽子線治療の治療費について」

京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 木元 拓也

(4) 質疑応答

京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学 木元 拓也



当日は、約 30 名の方々にご聴講いただきました。

講演では、陽子線治療の概要、日本における陽子線治療の適応疾患（保険適用、先進医療）、当院の陽子線治療の特徴（照射方法、治療実績）、陽子線治療の治療費（保険診療 [高額療養費制度、自己負担額]、先進医療）について紹介しました。

質疑応答では、入院や適応疾患についてなど、様々な質問があり、先生が回答しました。

【質疑応答の内容（一部）】

Q1 多発性肺癌についての適応は？

A1 肺癌は、先進医療の対象です。各疾患でどのような病態であれば、適応になるかどうかが決まっています。肺癌の中でも、扁平上皮癌、腺癌、小細胞癌等様々な種類があります。基本的には、一度に全ての病変が治療できる範囲であれば適応になる可能性があります。小細胞肺癌は、適応にならない場合が多いです。多発性の場合、2, 3個が近いところにある場合には、治療できる場合がありますが、離れた場所に複数あるとかいう場合、1度に治療するのは難しい場合には、適応とはならないことが多いです。適応については、実際の画像・所見等を加味して最終的に判断しています。

Q2 前立腺がんについての質問です。陽子線治療、重粒子線治療、VMATの効果と有害事象の違い。また、患者さんはどのような基準で選ぶのか？

A2 ※VMATとは、X線治療による高精度な放射線治療のことです。前立腺癌について、粒子線治療（陽子線治療、重粒子線治療）とX線治療は、病気を抑える効果は、ほぼ同等であると一般的には言われています。また、有害事象について、起こりうることは同じなのですが、粒子線治療は、X線治療に比べて、有害事象を減らせる可能性があります。また、通院回数や前処置が異なる場合があります。現時点で、いずれの治療も対等な選択肢であり、基本的には患者さんの希望に応じて治療法を選択します。

Q3 通院が大変なのですが、入院は可能でしょうか。

A3 当院では、放射線科としては、入院対応できていません。各疾患に対応した診療科に対応を相談することになりますが、入院病床に限りがあり、難しいのが実情です。陽子線治療自体は、外来通院で治療できるくらいの患者さんの負担というのが一般的であり、陽子線治療単独の場合、入院は基本的に困難です。入院対応となるのは、主に入院が必要な治療を併用する場合（抗がん剤やカテーテル治療等）になります。入院以外の方法にはなりますが、近隣の宿泊施設から、またはウィークリーマンションを借りていただき、通院いただく方法が現実的のところになります。当院で陽子線治療をする場合に割引してくださる宿泊施設もあります。

講座を聴講された方からは、「陽子線治療や治療費について、わかりやすい講演でした。」などの感想をいただきました。

次回の府民公開講座やセミナーについては、日程が決まり次第、永守がんセンターのホームページやSNSでご案内いたします。